

2021年1月18日

カーボンニュートラルの実現に向けた推進体制を構築

住友化学は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた当社グループの戦略を策定し推進するため、「カーボンニュートラル戦略審議会」および「カーボンニュートラル戦略クロスファンクショナルチーム」を、2021年2月1日付で設置することといたしました。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、気候変動やエネルギー、食糧、感染症対策など、国際社会が直面するさまざまな課題解決の重要性が再認識されています。特に、気候変動に関しては、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5°C以内に抑えるべく、50年までにカーボンニュートラルの達成を目指すことを、日本を含む各国・地域が次々と表明し、政府や民間企業などが検討や活動を進めています。その実現には、カーボンリサイクルをはじめさまざまな技術開発が不可欠であり、われわれ化学産業には、イノベーションを生み出し、事業を通じた社会全体のカーボンニュートラル達成への貢献が強く求められています。

このような認識の下、住友化学は、「カーボンニュートラル戦略審議会」を新設し、以下の4つの視点から2050年カーボンニュートラルの実現に向けた当社グループの戦略を策定するとともに、マイルストーンを設定し、長期的かつ総合的な観点から取り組みを推進することとしました。

【住友化学のカーボンニュートラル戦略の視点】

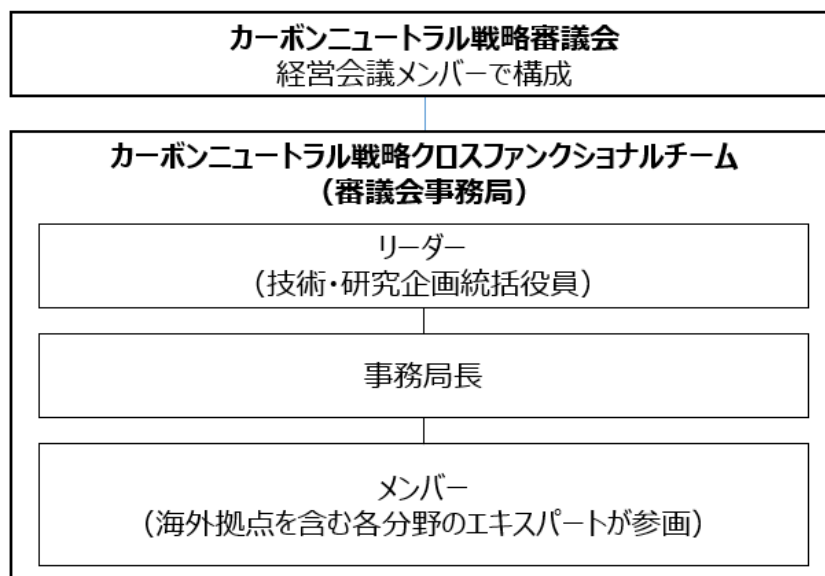
1. イノベーションにより当社グループの生産活動に伴う温室効果ガス排出の最小化を達成し、開発した技術を世界に提供・展開すること
2. 社会で使われているさまざまな素材について温室効果ガス排出削減のための革新を図り、LCA[※]の観点からカーボンニュートラルに貢献する製品やソリューションを提供すること
3. 他産業や社会生活から排出される温室効果ガスを回収・分離・活用・貯蔵する技術の開発に積極的に参画するとともに、それを社会実装するシステムの一員となって貢献すること
4. 排出され地球を覆っている温室効果ガスの絶対量を減らすためのカーボンネガティブ技術を開発する長期的な課題に挑むこと

また、同審議会の事務局として、技術・研究企画やレスポンシブルケアなどを統括する役員をリーダーに、関連部署横断的な体制として「カーボンニュートラル戦略クロスファンクショナルチーム」を合わせて発足させます。本チームが主体となり、「画期的な蓄エネ・省エネ技術の社会実装」や「実効的な炭素循環サイクルの確立」、「水素供給およびその利活用（アンモニアを含む）の推進」、「畜・農産分野での温室効果ガス削減への貢献」など、総合化学メーカーだからこそできる多面的なアプローチを戦略に組み込む方針です。

住友化学は、「事業活動を通じて人類社会の発展に貢献する」を経営理念に掲げています。これからもグループを挙げて、経済価値と社会価値を一体的に創出し、持続的な成長とともに、サステナブルな社会の実現への貢献を目指してまいります。

※ Life Cycle Assessment の略。ある製品などの原料調達から使用、廃棄に至るまでのライフサイクル全体の環境負荷を定量的に評価する手法のこと

<ご参考> 21年2月1日以降の住友化学のカーボンニュートラル戦略推進体制



以上